

2026年6月 東京地区百貨店売上高概況

2026年7月24日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 471億円余
2. 前年同月比（増減率）	4.4%（6か月連続プラス）
3. 店頭・非店頭の増減	店頭5.6%（92.0%）：非店頭－8.3%（8.0%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店（本年5月対比±0店）（前年同月比：±0店）
5. 総店舗面積	675,846㎡（前年同月比：1.5%）
6. 総従業員数	12,262人（前年同月比：－1.4%）
7. 3か月移動平均値	11-1月 0.5%、12-2月 1.4%、1-3月 3.2%、 2-4月 5.0%、3-5月 7.5%、4-6月 7.5%

【参考】2025年6月の売上高増減率は－10.6%

【特 徴】

6月の東京地区の売上高は4.4%増と6か月連続でプラスとなった。長雨や台風等の天候不順の影響により入店客数は1.4%減と前年を下回ったものの、時計や宝飾品等の高額品が国内外共に好調を維持し、売上全体を牽引した。インバウンド売上高は、中国の売上がプラスに転じた他、その他の国・地域も伸長し二桁増となった。具体的なアイテムの動向は以下のとおり。

衣料品（3.8%増）：例年に比べ降雨日が多く、月前半は気温も低めに推移したため、盛夏商材は苦戦した。一方、寒暖差に対応できるアイテムは堅調に推移。月後半は気温上昇に伴い、Tシャツやカットソー等が動いた。子供服はインバウンド需要にも支えられ好調。クリアランスは開始時期の天候不順の影響もあり、立ち上がりは鈍かった。

身のまわり品（5.0%増）：ラグジュアリーブランドを中心に高付加価値商品が堅調に推移。外商顧客に加え、訪日客需要も下支えた。婦人靴はサンダル等夏物商材は苦戦したが、梅雨対策のレインシューズや、スニーカー等のカジュアルシューズは好調。

雑貨（15.7%増）：高級時計や宝飾品等の高額品が引き続き売上を牽引。化粧品は、国内・インバウンド共に堅調。時計、化粧品共に日本製商品が訪日客から高い支持を集め好調。

食料品（1.7%減）：来店客数の減少や物価上昇の影響もあり、6か月ぶりにマイナス。菓子は和菓子が好調に推移。中元商戦は店頭展開の縮小傾向が続くものの、自家需要は堅調。

7月足元動向：高額品や免税売上の好調が継続しており、前年比12.2%増（7/16時点）。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.0日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数17店舗）
①増加した：1店、②変化なし：3店、③減少した：13店
- (3) 6月歳時記（父の日、中元）の売上（同上／有効回答数12店舗）
①増加した：2店、②変化なし：7店、③減少した：3店

東京地区百貨店 売上高速報 2026年6月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	147,178,108	100.0	4.4
紳士服・洋品	9,590,320	6.5	-4.8
婦人服・洋品	23,220,463	15.8	7.9
子供服・洋品	1,619,372	1.1	5.7
その他衣料品	1,641,681	1.1	0.6
衣 料 品	36,071,836	24.5	3.8
身のまわり品	25,046,955	17.0	5.0
化粧品	12,713,482	8.6	2.9
美術・宝飾・貴金属	20,644,361	14.0	28.3
その他雑貨	3,802,264	2.6	3.2
雑 貨	37,160,107	25.2	15.7
家 具	1,266,948	0.9	0.8
家 電	1,101,571	0.7	-21.6
その他家庭用品	2,860,098	1.9	-1.9
家 庭 用 品	5,228,617	3.6	-6.3
生 鮮 食 品	4,251,919	2.9	-3.4
菓 子	11,265,217	7.7	2.6
惣 菜	6,926,013	4.7	-0.4
その他食料品	12,664,172	8.6	-5.3
食 料 品	35,107,321	23.9	-1.7
食 堂 喫 茶	2,110,662	1.4	-4.4
サ ー ビ ス	1,596,850	1.1	-5.8
そ の 他	4,855,760	3.3	-4.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	2,176,827 千円	-4.7
従 業 員 数	12,262 人	-1.4
店 舗 面 積	675,846 m ²	1.5

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は衣料品、身のまわり品、雑貨の3品目がプラスとなった。
その他の品目は、婦人服・洋品が10か月連続、化粧品が3か月連続、美術・宝飾・貴金属が11か月連続でプラスとなった一方、紳士服・洋品が5か月ぶり、生鮮食品が2か月ぶり、惣菜が11か月ぶりにマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	4.4	—	6か月連続プラス
紳士服・洋品	－4.8	－0.3	5か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	7.9	1.2	10か月連続プラス
子供服・洋品	5.7	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	0.6	0.0	3か月連続プラス
衣料品	3.8	0.9	6か月連続プラス
身のまわり品	5.0	0.9	4か月連続プラス
化粧品	2.9	0.3	3か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	28.3	3.2	11か月連続プラス*
その他雑貨	3.2	0.1	10か月連続プラス*
雑貨	15.7	3.6	10か月連続プラス
家具	0.8	0.0	2か月連続プラス
家電	－21.6	－0.2	4か月ぶりマイナス
その他家庭用品	－1.9	－0.0	2か月連続マイナス
家庭用品	－6.3	－0.2	4か月ぶりマイナス
生鮮食品	－3.4	－0.1	2か月ぶりマイナス*
菓子	2.6	0.2	11か月連続プラス*
惣菜	－0.4	－0.0	11か月ぶりマイナス*
その他食料品	－5.3	－0.5	2か月ぶりマイナス*
食料品	－1.7	－0.4	6か月ぶりマイナス
食堂喫茶	－4.4	－0.1	9か月ぶりマイナス
サービス	－5.8	－0.1	3か月ぶりマイナス
その他	－4.6	－0.2	3か月連続マイナス
商品券	－4.7	－0.1	28か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・青柳 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>